

研修NO.

17-11

標準化と品質管理の進め方

品質管理実践編

対象者

管理者・新任管理者・グループリーダー等

研修のねらい

取引先の求める品質レベルの高度化に対応するためには、出荷検査だけでなく全社的な品質管理の体制構築が必要となります。

本研修では、品質を製造工程で作り込むQC的な考え方とその管理の進め方を学ぶとともに、演習を通じて自社の課題解決に取り組みます。

このような方におすすめ

★標準化、品質管理の考え方や取り組み方を学びたい方

★QC7つ道具を活用した課題解決の手法を学びたい方

受講生の声

- ◆過去の事例、動画を使いながら分かりやすい講義でした。
- ◆設問も具体例が身近に起こりうる事案でしたので、取り組みやすかったように思いました。
- ◆現状、私が見る視点と違った所から見て教えて頂いたので、啓発された。

実施期間

全3日間(21時間)

2017年7月3日(月)～5日(水)

定員

30名

受講料

31,000円(税込)

※宿泊費は含まれません。

※お申込みが多数の場合、定員を変更させていただく場合がございます。

研修カリキュラム

日程	研修テーマ	内容
7/3(月) 9:40～18:10	1.標準化の考え方と進め方 2.QC7つ道具の理解と活用	<ul style="list-style-type: none"> ●国際基準である品質マネジメントシステム「ISO9000シリーズ」を中心に、全社的な品質管理体制構築の考え方や標準化の進め方について学びます。 ・ISO9001の理解と効果をあげる活用法、品質マネジメントの実情 ・標準化の進め方と品質管理の実務 ●QC手法の代表であるQC7つ道具(特性要因図、パレート図、ヒストグラム、管理図、散布図、グラフ、チェックシート)の知識や使い方について、演習を交えて理解・習得します。※新QC7つ道具についても紹介 ・QC7つ道具の理解と活用 ・統計解析の活用、納入先とのデザイン・イン対策
7/4(火) 9:30～18:00	3.QC手法の実践的活用法	<ul style="list-style-type: none"> ●QC7つ道具の現場における活用法や、不良原因分析・不良発生予防の具体的な手法を学び、不良ゼロ化に向けた実践力を身に付けます。 ・QC7つ道具の活用法の評価 ・三現主義による事実分析の進め方 ・不良原因の効果的追跡方法 ・標準化による不良発生予防対策
7/5(水) 9:00～16:00	4.自社の品質改善活動の検討	<ul style="list-style-type: none"> ●これまで学んだ標準化の実務での活用法やQC手法を参考とし、自社の品質改善に向けた取組みを検討します。 ・QC工程分析による不良撲滅の進め方 ・品質改善をテーマとした自社課題の分析、品質改善活動の検討 ・グループによる検討、発表討論会

※カリキュラムは変更となる場合がございます。

講師紹介

▶中村 茂弘 (なかむら しげひろ)

QCD革新研究所 所長

早稲田大学大学院理工学研究科卒業。日立金属(株)勤務20年、一般社団法人日本能率協会(JMA)を経て現職。ISO9001審査員補、ISO14001審査員補、JMA不良・クレームゼロ対策研究会委員主査、特許・リサイクル対策研究会主査、チームマネジメント研究会主査、技術・技能伝承対策研究会を歴任。JMA・専任講師